

整理番号	49-1	事務事業名	図書館運営事業 (デジタル情報活用推進事業)	作成部署	生涯学習部図書館	電話	373-7667
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 山内平一郎	課長職名	新谷良文	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H10	根拠法令等	図書館法				
〃 終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	図書館開設にあたり、業務処理及び情報提供サービスのためにコンピューターシステムとAV情報の提供システムを導入した。						

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐむまち	(第4章)
	節	社会教育	(第3節)
	施策	読書活動の充実	(第5施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	図書館職員及び市民(年齢による区分なし)	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	マルチメディアを中心とするデジタル情報に市民が親しみ、市民自らの手でそれらの情報を入手できる環境を整備する。今後のデジタル情報に寄せる市民の期待に応えることの施策の効果は極めて高い。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	図書館業務処理システム、及び芸術文化ホール・総合体育館・中央公民館の施設予約システム、そして各施設での生涯学習情報発信システム、以上3点の機能を有するコンピュータシステムの借り上げと運用。
		17年度	ホール等北広島市内の社会教育施設と、平成18年4月に開館予定の(仮称)大曲コミュニティセンターの使用状況などの生涯学習情報の発信機能を有するコンピュータシステムの借り上げと運用。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源				
	合計	12,600	12,600	13,795	16,183
人件費 (概算)	人数(年間)	0.40	0.00	0.10	0.00
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	3,600	0	900	0
総事業費 +		16,200	12,600	14,695	16,183

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	生涯学習部内施設の電算処理	4館	4館	5館	5館
	借上げ費用の推移	12,600千円	12,600千円	13,795千円	16,183千円
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	年間の施設利用者数	593,000人	593,000人	593,000人	700,000人
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	利用者一人当たりのコスト (借上費用 ÷ 年間施設利用者数)	21.2円	21.2円	23.3円	23.1円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	社会教育施設の委託民営化による質の低下が懸念される中、質の高い管理システム・情報発信システムの構築は、市民サービスの水準を維持するものとされる。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	運営の基盤となるべき整備事業であり、市が行う事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	これまでよりも図書館等社会教育施設の活用範囲を広げることができる。高度情報化社会において、市民ニーズの最も高い分野と考えるべきである。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	人件費削減に対して最も有効な手段であり、直営であれ、委託であれ、必須の手段である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	インターネットの使用については、有料化(30分/100円)している。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	情報を司ることを目的とする図書館活動において、情報機器の導入は必要不可欠と考える。ネットワーク機器の活用は今後も図書館活動を発展させる。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	既存設備を最大限有効に活用して、大曲コミセンのシステム導入などの新規事業に対応している。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	今後も引き続き、提供情報の範囲拡大と内容充実を進める。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり